第47回 支店長のわがまち紹介

栃木県鹿沼市

水と緑に恵まれたまち「鹿沼市」、“いちごいちえ”のおもてなし

清流　（写真提供：鹿沼市）

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長がゆかりのある市町村をご紹介させていただくコーナーです。第47回は栃木県鹿沼市です。鹿沼支店長が鹿沼市長 佐藤信氏にお話を伺いました。

●鹿沼市が自慢できることをお聞かせください。

■水と緑に恵まれたまち

市域の約7割を山林が占める鹿沼市は、雄大な山々を背景に、歴史ある町並みと新しい市街地、山と高原、清流と渓谷という美しい景観を誇る水と緑に恵まれたまちです。

東京から約100km圏内にあり、東北自動車道や北関東自動車道、JR日光線や東武日光線などの交通網により、アクセス性にも優れています。

江戸期から明治初期頃までは、朝廷の勅使である日光例幣使が、京の都から日光東照宮へ往来した際の宿場町となり、交通の要衝として栄えてきました。日光東照宮造営の際には、全国から集結した腕利きの宮大工や職人が鹿沼市に移り住んだといわれ、彼らから伝えられた技が組子や建具、彫刻といった技術力の礎となっています。

また、関東大震災や戦災の復興による木材需要から、鹿沼建具は大きく成長し、日本屈指の木工産地へと発展してきました。

■「かぬまブランド」と「いちご市」宣言！

豊かな水により、鹿沼市では質の高いにら、トマト、いちごなどが栽培されています。それらを「かぬまブランド」として認定し、国内外へ情報発信しています。また新たなブランドの創出にも取り組んでいます。

かぬまブランドのなかでも「市の果実」でもあるいちごは、「品質日本一」との評価を得ることが多く、市場での基準価格になる場合もあります。そこで鹿沼市では、市のシンボルを「いちご」、キャッチコピーを「いちごいちえ」とし、「いちご市」を宣言しました。

鹿沼市産とちおとめ　（写真提供：鹿沼市）

■「まちの駅」設置数日本一！の「おもてなし」

鹿沼市は「いちごいちえ」のキャッチコピーのもと、出会いやふれあいを大切にしています。そのため、訪れた人が誰でも無料で利用できる「まちの駅」開設などを支援し、交流人口の拡大を図っています。

現在、市内にある「まちの駅」※は103カ所で、その数は日本一です。ほとんどが「おもてなしの心」で市民が自主的に開設しているもので、訪問者が「楽しく回遊できるまち」になるよう、市民主体で様々な取り組みを行っています。特に「まちの駅 新・鹿沼宿」は、地域情報の発信拠点、コミュニティー

※　全国まちの駅連絡協議会事務局　特定非営利活動法人地域交流センターに認定された“無料で休憩できるまちの案内所”。行政・民間を問わない設置・運営形態で、休憩機能、案内機能、交流機能、連携機能を有す。

鹿沼市長　佐藤 信氏

鹿沼支店長　長岡 修

バス「リーバス」の発着点、「かぬまブランド」をはじめとした特産品や地場農産物などの販売拠点として、訪れた方々を楽しませています。

●今後の展望についてお聞かせください。

■「森林認証」を大きく打ち出したまちづくり

平成28年6月、鹿沼産材が適正に管理された森林から産出された木材の証である「森林認証」を取得しました。国際的な審査機関に認められたことで、本市の豊かな森林や良質な木材の信頼性が改めてクローズアップされ、まちづくりの大きな弾みになると期待しています。

今後、国立競技場への使用や友好・交流都市の公共施設への使用など、関係機関に積極的に働きかけるとともに、将来的には、市内の公共建築物に認証材を全面的に導入するなど、「森林認証」を大きく打ち出したまちづくりを推進していきます。

■農業活性化に向けた取り組み

近年、園芸が非常に勢い付いています。今後はいちごだけでなく、素晴らしい作物がとれる場所であることを積極的にPRしていきます。

また、後継者育成にも力をいれていきます。今年度のいちご栽培新規就農者の公募は、非常に大きな反響がありました。かつて生産量日本一であったにらは、現在栃木県は高知県に次ぐ2番目です。鹿沼市は県内では群を抜いており、また、鹿沼のにらは肉厚で歯ごたえのある非常に質の良いものであるため、にら栽培の後継者育成も早急に始めたいと考えています。

鹿沼産にらを使用した「にらそば」
（写真提供：鹿沼市）

■ユネスコ無形文化遺産「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」

「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」が、昨年ユネスコ無形文化遺産に登録されました。彫刻屋台は江戸時代からの伝統を今に残す精緻な彫刻技術が見もので、鹿沼市を代表する文化財です。

毎年10月に開催される「鹿沼秋まつり」には多くの観光客が訪れています。今後は伝統を大切にしながらも、観光客も祭りに加われるような仕組みを考え、誘客につなげていきたいと思います。

秋祭りの様子　（写真提供：鹿沼市）

■工業団地を整備し、皆様の期待に応える

鹿沼市の工業団地はICに隣接した全国的に見てもかなりめずらしいものです。北関東道の開通、さらに都賀西方のスマートICができることでより便利になるため、今が企業誘致のチャンスであると考えています。

また、首都圏の地震対策のためのバックアップ機能として、一部機能を移転させたいと考えている企業も多く、新しい工業団地をいち早く整備し、皆様の期待に応えていきたいと考えています。

●筑波銀行に期待することをお聞かせください。

昨年度、市主体のビジネスマッチングを開催して様々なことを学びました。市の事業者は良い製品、素晴らしい技術を持っていても、販売面では非常に苦戦しており、販路の拡大が今後の大きな課題だと感じました。どこかが生き残ればどこかが敗退するという厳しい時代ですが、相互補完のように、お互いの強みを生かして交流を図り、よりよいものに繋げていきたいです。

そのためにも筑波銀行の親交のある地域や得意分野で、ネットワーク形成などにご指導いただきたいと思います。また、今年度もビジネスマッチングを開催したいと考えていますので、その際にもお力を賜れば大変ありがたいです。